

はじめに

本校は、明治44年に橋本町立実科高等女学校として開校し、戦後の学制改革で現在の和歌山県立橋本高等学校となり、開校以来百年を越える歴史を刻んでいる学校です。また、平成18年に同校地内に併設型中学校として古佐田丘中学校を設置している併設型中高一貫校でもあります。

「自治と自由」を校訓とし、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する創造性豊かな人間の育成を目指しています。また、ユネスコスクールとして国際理解教育にも積極的に取り組んでいます。

これからの新しい時代は、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代と言われています。その新時代を幸せに過ごしていくために必要な資質・能力を育成するために、本校では「総合的な探究の時間」において、地域の課題や国際的な課題を発見し、解決するための道筋を探究する学習活動により、社会に対する認識を深め、自己の生き方を選択する能力や態度の育成に一定の成果を上げてきました。その教育活動をさらに充実していくため、令和4年度に文部科学省より「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、教科横断型の探究的な学びの構築、普通科の学際領域型新学科改編に向けて研究を進めています。

今年度は、令和4年度の研究・実践における課題を踏まえ、普通科改革の推進を組織的・継続的に取り組むため特色教育推進部を新設するなど、校内体制を整備しました。生徒のコミュニケーション能力向上のために、地域を含めた日本各地、また世界各国の社会人や高校生など、自分たちとは違う立場や環境にある人々との交流や、自分の研究について討議を行い、多角的視点からの考察に基づく課題研究の実践に向けて取り組んでいます。令和6年度入学生から実施予定の学校設定科目「世紀の空」では、新たな未来を創造する人材として活躍するため、課題対応能力、自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力のさらなる育成を目指しています。「世紀の空」、「総合的な探究の時間」および「各教科」がそれぞれの学習活動をリンクさせ、教科横断的な深い学びとなるよう全校体制で研究しています。今後は、これらの教科横断的及び探究的な新しい学びが生徒の資質・能力の成長にどのように寄与し、生徒たちがどう変容していくかについても検証していきたいと考えております。

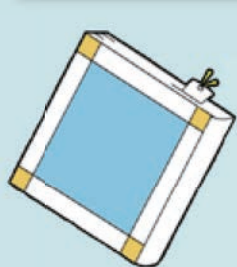
本報告書が普通科改革の推進に関わる関係者の皆様にご覧いただき、具体的な取組を進めるうえでの御参考になればと願うとともに、本事業実施にあたって多大なる御指導と御協力をいただきました文部科学省、県教育委員会、運営指導委員、コンソーシアム機関及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

令和6年3月  
和歌山県立橋本高等学校  
校長 田中克介

橋高で

探究！研究！追究！

新しい普通科教育を目指して、橋高が変わります！



どんな活動をするんだろう...?

和歌山県立橋本高等学校

# こんな活動をします！

## 1 学年 地域探究



橋本市の地域課題解決に向けた取り組みを提案します。また、「国内外で活躍する方の講演」「和歌山県の世界遺産での実地研修」などから学んだ内容を海外に紹介する活動を行います。それによって、課題の発見、発信につなげ、探究活動の基本的スキルの習得を目指します。

「世紀の空」(学校指定科目)

「創世の翼」(総合的な探究の時間)

を通して、「探究」します！

## 2 学年 SDGs 探究



SDGsの課題解決に向けた取り組みを提案します。また、企業や大学での実地研修を行い、広い視野をもった探究活動につなげていきます。さらに、海外や他府県の高校とのディスカッションや、ディベート活動を通して探究活動の深化を目指します。

## 3 学年 自己探究



これまでの研究をさらに深め、卒業レポートを仕上げます。また、国内外の学生とのディスカッションを行うことで、さらにコミュニケーションの力を高めます。それによって、卒業後の自分自身の将来のために、自己を発信する能力を養います。



和歌山県立橋本高等学校

〒648-0065

和歌山県橋本市古佐田四丁目10番1号

Tel 0736-32-0049 Fax 0736-34-2185

デザイン：橋本高校美術部

## 目次

1. 事業の実績	1
2. 事業内容	2
3. 校内運営体制	3
4. コンソーシアムの体制および取り組み	4
5. コーディネーターの配置および活動内容	5
6. 管理機関による事業の実施体制や管理方法	5
7. 1 学年探究内容	6
8. 2 学年探究内容	15
9. 校内全体発表会内容	28
10. 高野山世界遺産研修	46
11. S D G s 企業研修	49
12. S D G s 大学研修	50
13. 他校・海外との交流	52
14. その他	
① 文化祭での取り組み	55
② 3年間を通して（生徒感想）	56

# 1. 事業の実績

## 【事業の実施日程（全体図）】

実施項目	橋本市に関する課題研究	市長プレゼン	世界遺産に関する課題研究	世界遺産に関する教科横断型授業	SDGsに関する課題研究	小学生交流	北海道釧路湖陵高校との討議	海外高校との交流	留学生交流	運営指導委員会
4月	2回				3回 講演					
5月	2回				2回					
6月	3回 講演				2回 講演					1回
7月	3回 市役所講義				3回	1回				
8月	1回				2回 大学訪問					
9月	7回 中間発表				5回 企業訪問 中間発表					
10月	3回			2回 歴史総合	5回					
11月	3回		3回 講演 事前学習 現地学習	2回 保健 論理表現	2回 小学校訪問	1回				
12月	2回			1回 論理表現	3回 小学校訪問	1回				1回
1月	2回 クラス内発表			1回 論理表現	1回 クラス内発表			1回 フィンランド	1回	
2月	3回 校内発表				2回 校内発表		1回	1回 マレーシア		1回
3月	2回 アンケート	1回			1回 アンケート			3回 台湾 オーストラリア	1回	

## 【事業実績の説明】

本校では、将来の予測が困難で、年々複雑化している新時代において、多角的な視点を実社会と結び付けた考察力を礎とし、新たな未来を創造できるグローバル人材の育成を目指している。そのため、令和6年度から、教科横断型の学び、および「総合的な探究の時間」で行う探究活動を支える学びとして学校設定科目「世紀の空」を開設し、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力の育成に取り組む予定である。令和4年度の指定を受け、より「総合的な探究の時間」および各教科と関連付けることを意識しながら、他者とのコミュニケーションの基本的なスキルを身につけるための研究を実施してきた。令和5年度においては、国内・海外の高校生、国内外で活躍する社会人、地域の小学生などの、年代や文化圏の異なる他者の価値観に触れながら研究を深めることを計画し、「総合的な探究の時間」との相関的な活動として、世界遺産学習、大学や企業等の外部機関と連携した学習、海外との交流を行った。しかしながら、これらの活動については、カリキュラム上、「総合的な探究の時間」やHRの時間を用いて、行わざるをえなかったため、時間的な制約があり、十分な事前事後学習に取り組めなかった。令和6年度からは、1年生で「世紀の空Ⅰ」を開設することで、さらに事前学習、実施、事後学習のサイクルを充実させた研究内容の実践を通して、カリキュラムや教育方法等の更なる研究開発を行うことができるよう計画している。

## 2. 事業内容

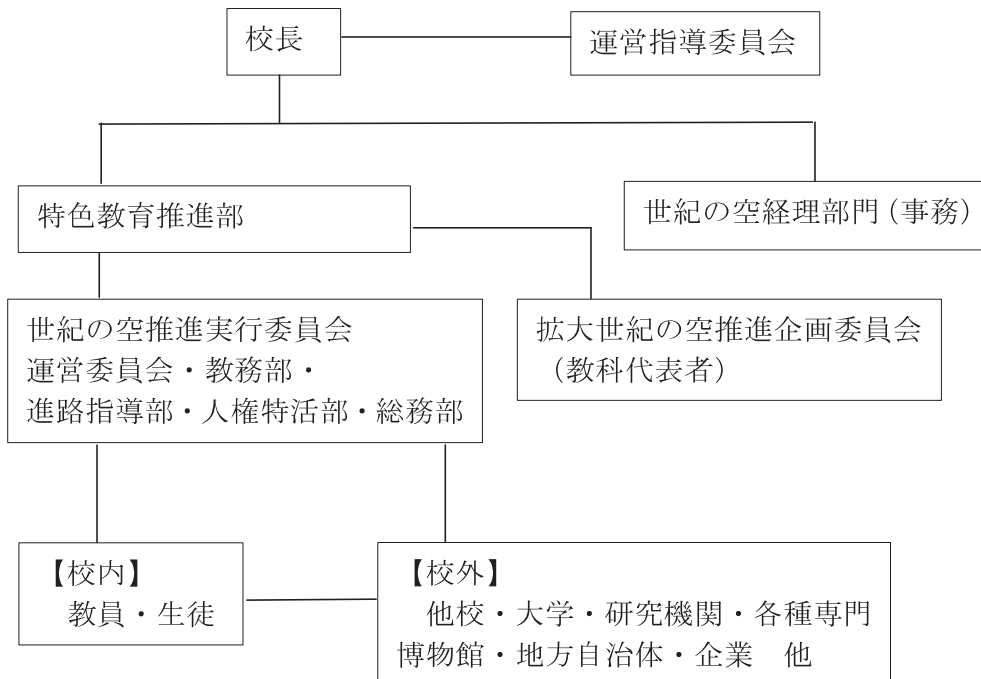
### 【活動実績】

活動時期	活動実績	
	1 学年	2 学年
4 月		・ 「ペタッとSDGs」朝日新聞講演
5 月	・ 探究課題設定	・ 探究課題設定
6 月	・ プレゼンテーション入門講演	・ プレゼンテーション講演
7 月	・ 橋本市役所へのインタビュー	・ 小学校との交流（橋本小学校夏祭り）
8 月	・ 人権教育講演	・ 人権教育講演 ・ SDGs 大学実地研修
9 月	・ 総合的な探究の時間中間発表会	・ 企業訪問 ・ 総合的な探究の時間中間発表会
10 月	・ 海外交流（マレーシア来校） ・ 世界遺産教科横断授業（地歴科）	・ 海外交流（マレーシア来校） ・ 小学校との交流 （橋本小学校授業見学）
11 月	・ 世界遺産（高野山）講演 ・ 世界遺産（高野山）実地研修	・ 小学校との交流（城山小学校来校）
12 月	・ 世界遺産教科横断授業（英語科）	・ 小学校との交流（城山小学校訪問） ・ 小学校との交流 （橋本小学校授業実施）
1 月	・ 総合的な探究の時間クラス発表会 ・ 世界遺産教科横断授業 （英語プレゼンテーション） ・ 海外留学生との対面交流 （和歌山大学）	・ 総合的な探究の時間クラス発表会 ・ SDGs 探究 AWARDS 応募 ・ 海外高校生オンライン交流 （フィンランド）
2 月	・ 総合的な探究の時間校内全体発表会	・ 総合的な探究の時間校内全体発表会 ・ 海外高校生オンライン交流 （マレーシア） ・ 国内高校生オンライン交流 （北海道釧路湖陵高校）
3 月	・ 海外留学生との対面交流 （大阪観光大学） ・ 橋本市役所への提言 （市長プレゼンテーション）	・ 海外高校生オンライン交流（台湾） ・ 海外高校生オンライン交流 （オーストラリア） ・ 総合的な探究の時間代表者地域発表会

### 【課題】

- ・他の学校行事との重複を考慮し、講演・実地研修の時期・内容を見直すとともに、事前事後の学習時間を確保することにより、内容の充実をはかる。
- ・高等教育機関、企業との連携、留学生や国内外の高校生との意見交流を継続化する。
- ・総合的な探究の時間や各教科等と本事業を相互に関連付け、カリキュラム・マネジメントを充実させる。
- ・広い視野での課題設定力とデータに基づいた論理的な発表力を強化する。

## 3. 校内運営体制



### ①運営指導委員会

大学教員・研究者・関係機関・教育委員会の指導主事等で構成し、専門的な見地から事業全体について指導、助言、評価する。

(構成員)

和歌山県教育委員会（学校教育局県立学校教育課）・橋本市国際親善協会  
橋本市教育委員会（生涯学習課・学校教育課）  
橋本市役所（総合政策部政策企画課）・公益財団法人和歌山県国際交流協会  
和歌山大学教育学部

### ②特色教育推進部

昨年度までは、「世紀の空実行委員会事務局」として、他の校務分掌との兼任であったが、業務が、研究内容の構築と実践に係る調整・連絡、校外機関との連携・調整、広報活動等多岐に渡るため、令和5年度より新たな校内分掌として位置づけられた。本事業の研究開発における進捗状況を確認し、職員会議で報告するとともに、運営指導委員会に対しても、事業の進捗状況・計画・方法について評価を受ける。評価結果から改善案を作成し、世紀の空推進実行委員会で検討・計画の改善を行う。また、コーディネーターとともに、学外との協働による事業全般の企画・立

案・実施と各教科と連絡調整を行い、研究開発において生徒を指導する指導教員を支援する。

③世紀の空経理部門

事業全般の経理を担当する。今年度の計画実施に伴う決算について執行するとともに、来年度の計画についての予算案を作成する。

④世紀の空推進実行委員会

特色教育推進部に他の各分掌代表を加え、円滑な運営のために、各分掌が行う講演や特別活動との調整、また、事業全般の検討と職員間の連絡調整をおこなう。

⑤拡大世紀の空推進企画委員会

各教科の教員を配置し、各科目の視点からの研究の進め方を考察するとともに、科目で行っている内容と関連した取り組みを企画し、教育課程全般について研究する。

#### 4. コンソーシアムの体制および取組

所属	令和5年度実績
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	海外との交流・発信における相手先の紹介
和歌山大学	校内発表会での講評・助言、留学生との交流を計画・実施
JICA	クラス中間発表・代表班選考・校内全体発表での講評と助言
認定NPO法人日越関西友好協会	海外との交流・発信における指導、助言を計画したが、未実施
橋本市役所	生徒への助言、および探究活動への協力
大阪観光大学	留学生との意見交流を実施（1学年）
株式会社 JTB	探究活動プログラム、コンテストの紹介

令和5年度は、コンソーシアムの構成員による講評や指導助言とともに、生徒の探究活動に対する外部機関からの視点に基づいた協力をいただいた。令和6年度からは、企業研修で協力していただいている株式会社スマイリーアースの奥氏にも加わっていただき、ご助言をいただく予定である。さらに生徒の活動の幅を広げるために、総合的な探究の時間や各教科等の相互の関わりを意識したカリキュラム・マネジメントの充実に向け、高等教育機関、研究機関などの外部機関との連携を強化する。



## 5. コーディネーターの配置および活動内容

令和5年度において、本校では、コーディネーターを2名配置した。主となる1名は、本事業に関わる様々な業務を委託しており、年間通して1回5時間で週3回の勤務である。もう1名は、語学での補助を目的としており、海外発信を行う1月～3月の期間に1回4時間で週1回の勤務である。主となるコーディネーターは、令和4年度に引き続き、総合的な探究の時間の内容や本事業の経過・内容、事前事後の指導計画や生徒感想文等、様々なことを把握した上で、担当者や関係者と検討を行った。令和4年度は10月からの取組となり、事業計画に沿って進めるには時間的に限られていたため、実施困難なことも多かったが、今年度については、令和6年度の学校設定科目開設を見通しながら、事業における研究協議を進めることができた。

具体的な取り組みとしては、高校1年生の「世界遺産高野山実地研修」や高校2年生の「株式会社スマイリーアースへのSDGs企業研修」「SDGs大学実地研修」を実施した後の生徒の意識や考え方の変化を踏まえ、担当者や関係者と熟議し、令和6年度に向けての取組を再構築した。さらに今までの取組を踏まえながら、他府県・海外とのオンライン交流、国内の大学に在籍する留学生との対面交流を計画し、語学力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・ディスカッション能力等の向上を図った。令和4年度の海外オンライン交流については、学年全体での実施は困難であり、限られたクラスでのみ実施したが、今年度は、該当する学年において、すべてのクラスでの実施を計画することができた。それに加えて、この海外とのオンライン交流に関しては、今回交流した海外の高校生が、令和6年度において、本校に来校することを視野に入れ、継続した交流を予定している。

また、これまでのSDGs研究発表会や地域の課題発見・研究に関する橋本市長に対してのプレゼンテーションなどについても、取組と成果を、地域や多方面に対して広報する活動も計画している。

今後は、コーディネーターが担当者や関係者と協議している内容について、全職員の共通理解を図る効果的な方策の検討、また、コーディネーターと外部との連絡調整における本校職員との共有方法の確立が必要である。さらに、令和6年度は、普通科改革支援事業の最終年度であり、このコーディネーター業務を今後、どのように継続していくかについても検討を進める予定である。

## 6. 管理機関による事業の実施体制や管理方法

令和5年度は運営指導委員会で6月12月1月の3回、それ以外に7月10月11月の3回の計6回、学校を訪問し、事業の内容や進捗状況について把握し、指導助言を行った。また、訪問していない月においても、現在の状況や今後の計画について、電話やメールにより学校側の担当者と協議を行った。

## 7. 1 学年探究内容

### 【活動計画】

月	日	曜日	1年
4	14	金	①3年間の学習内容説明（学年集会で）
	28	金	②講演（課題設定に向けて）体育館
5	12	金	③橋本市の魅力発見（HP,データ使用、班分けアンケート）
	26	金	④橋本市の魅力発見（BSとKJ法を実践する）
6	2	金	⑤橋本市の魅力共有（町のビジョンを考える）
	22	木	⑥橋本市の魅力から課題の解決策（質問シート提出）
	22	木	⑥橋本市役所にプレゼンテーションと質問内容を考える
	23	金	⑦講演（プレゼンテーション入門）1時間視聴覚
7	7	金	⑧橋本市役所に質問 7限体育館
	14	金	⑨課題設定（市役所からのアドバイスまとめ）
	18	火	⑩課題設定（夏休み課題の説明）
			夏課題（夏休み探究活動報告）
8	25	金	⑪中間発表準備1
9	1	金	⑫中間発表準備2
	8	金	⑬中間発表準備3 →中間発表発表シート提出
	15	金	⑭中間発表：7限
	22	金	⑮課題設定の再確認
	13	金	⑯発表準備1（活動届説明・Teams説明）
10	20	金	⑰発表準備2（アンケート作成説明）
	27	金	⑱発表準備3（校外活動等）
11	9	木	⑲発表準備4
	10	金	⑳発表準備4 世界遺産高野山講演
	16	木	㉑世界遺産高野山事前学習
	17	金	㉒発表準備5
	24	金	㉓発表準備6
	28	火	㉔世界遺産高野山校外学習（現地学習）
12	1	金	㉕発表準備7
	21	木	㉖発表準備8（読み原稿作り・発表担当順決め）
			冬休み宿題：プレゼンテーションの練習をしてくる
1	12	金	㉗クラス内発表会（3・4限 各HR教室）
	23	火	㉘和歌山大学留学生との交流
	26	金	㉙発表振り返り（自己評価）
2	2	金	㉚発表振り返り（代表班リハーサル・他者評価）
	8	木	㉛校内発表
	16	金	㉜発表振り返り（まとめ、お礼文作成）
3	13	水	㉝市長プレゼンテーション
	15・19		㉞大阪観光大学留学生との交流

## 【主な活動内容】

1 学年の総合的な探究の時間では、橋本市の活性化に向けて自分たちが考えた取り組みを提言するという課題学習に取り組んだ。講演や市役所へのインタビューを通して、考え方や取り組みについての理解を深め、中間発表では市役所へのプレゼンテーションを通して課題に対する理解を深化させる機会となった。取材やアンケートを目的とした地域訪問など、自分たちができる課題解決に向けて、考察を深めるとともに、それと並行して、高野山での世界遺産学習を行うことで、さらに視野を広げる手立てとした。校内全体発表会で市役所職員によって、選ばれた班は市長プレゼンテーションで提言した。

### ①プレゼンテーション講演会

日時：6月23日（金）6～7限（体育館）

目的：プレゼンテーションの基本を体系的に学び、聴き手の共感を得る方法を理解することで、探究活動に役立てる。

内容：講演「探究が変わるプレゼンテーション」  
京都芸術大学 吉田大作氏



### ②市役所に聞いてもらおう

日時：7月7日（金）7限（体育館）

目的：市役所へのプレゼンテーションと質問を通して、課題設定についての理解を深め、ヒントやアドバイスをもらい、総合的な探究の時間の学習活動に繋げる。

内容：事前に各班において、疑問に感じたことや自分たちが取り組みたいと考えていることをまとめ、市役所職員に対してプレゼンテーションと質問を行う。



### ③夏季休業中の活動

目的：総合的な探究の時間の課題内容について、さらに深める。

内容：総合的な探究の時間の夏休みワークシートを各班で仕上げる。

※課題：それぞれの探究課題における校外での調査や研究のためには、休業日を用いて、各班が自由に時間設定し、行動できることが有効である。しかし、今年度は課題設定までに時間を要したために、そこまでの指導ができなかった。そのため、来年度からは1学期の活動について精選し、夏休み前に校外活動について説明し、長期休業に各班が活発に活動できるようにする必要がある。

#### ④中間発表

日時：9月15日（金）7限（各HR教室）

目的：総合的な探究の時間で取り組んでいる課題研究について、班別プレゼンテーションを行い、市役所職員からの講評・質疑応答を通じて、新たな視点・観点を生徒間で共有することにより、自らの考えや共通理解を深め今後の探究活動に繋げる。

内容：中間発表「地域活性のために自分たちにできること」

発表1～2分＋講評・質疑応答3～4分



#### ⑤クラス内発表（総合的な探究の時間）

日時：1月12日（金）6～7限（各HR教室）

目的：総合的な探究の時間で取り組んできた課題研究について、クラス内でプレゼンテーションを行い、講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。

内容：クラス内の8班が、自分たちの提案等を発表し、クラス代表1班を決定する。

発表6～8分＋講評・質疑応答

評価者は、副担任、担任、生徒。

※備考：評価基準は評価者に事前に伝えておく。

代表班が決定後、講評者からのアドバイスをもとに全体発表に向けて、ブラッシュアップをさせる。



#### ⑥校内全体発表（総合的な探究の時間）

日時：2月8日（木）

場所：橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」

目的：総合的な探究の時間で取り組んできた課題研究について、全学年代表班のプレゼンテーションを行い、有識者からの講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。

内容：各クラスから選ばれた5班が、自分たちの提案等を発表する。発表9分＋講評・質疑応答。講評者は有識者8名。

#### ⑦市長プレゼンテーション

日時：3月13日（水）

連携機関：橋本市役所

内容：校内発表会で選ばれた班が、市長に向けてプレゼンテーションをおこなう。

## 【課題研究内容一覧】

1A1	スマートごみ箱
<p>スマートごみ箱をテーマにみんなで協力し、一人ひとり力を合わせて取り組んだ。まずはじめにスマートごみ箱の特徴やメリット、デメリットを徹底的に調べ上げた。そして一人ひとりでスマートごみ箱についてのスライドや原稿を作った。発表の時はみんなに聞こえやすい声ではきはき話し、メンバーの一人は、アドリブでみんながわかりやすいようにプレゼンをしていた。スマートごみ箱を調べたことによって、スマートごみ箱はソーラーパネルで発電し、自給自足で電力を賄えることを知った。また内部のセンサーが容量を感知しいっぱいになると自動的にごみを圧縮することができる事も知れた。みんなで一致団結することでとても良いものが作れたと思う。</p>	
1A2	橋本市に移住してもらうには
<p>私たちは「橋本市に移住してもらうには」をテーマに探究活動をしました。班の中で役割分担をして班のメンバー全員が活躍できるようにし、班全員で協力して探究に取り組みました。そして内容では、いきなり世界的な大きい問題について考えるのではなく、身近に感じる問題から考え、橋本市がより良い街になるにはどうしたらよいかを考えました。クラス代表に選ばれ、よりよい発表にするために話し合いを重ね、クラスの代表として責任を持ち、放課後に残ったり、家でパワーポイントを改善したり工夫を重ねました。市長プレゼンの代表には選ばれませんでした。が、橋本市の良さに改めて気づき、この街をさらに良くしようと思いました。</p>	
1A3	橋本市の果物
<p>私たちは、橋本市の農林業を活性化するために、無人販売を用いて、柿の知名度や魅力、消費量を向上することをテーマとして活動しました。今あるものを参考にして、新たに自分たちにできることを取り入れていきました。さらに大きなテーマを決めた後、新たに別のものを取り入れるように取り組んでいきました。みんなの意見を出してまとめていく大変さ、目標に対して進めていく際の計画の立て方や予定通りに進めていく大変さを学びました。さらに、発表に関してほかの班をみて、自分たちに足りないパワーポイントのことや発表する際の目線、声の出し方などに気づくことができました。</p>	
1A4	橋本市の次を担う果物。
<p>橋本市の次を担う果物について、全身全霊で安定性を求めて、全力で案を考え、根本となる橋本という町を調べたり、柿について学んで実際にやっちゃん広場に行き、リーダーが代表して加工品などを調べた。その写真をもとに1度発表したが、市役所の方に全面否定されてしまい、詰めの甘さを思い知らされた。そこから、必死に改善したが、代表に選ばれなかった。とても悔しかった。この活動を通して、全力で取り組む楽しさ、仲間の大切さを学ぶことができた。この学びを胸に来年のSDGsについての発表では「自治と自由」をもとに班活動をしていき、さらなる成長を求めて、総合探究の活動に取り組んでいこうと思った。</p>	
1A5	橋本市の自営業の活性化
<p>私達は商工業の分野において橋本市の活性化を目指すために、市内の自営業の知名度が低いことに着目し、「自営業の活性化」をテーマとした。橋本市の自営業には何があるのか調べたり、資料館などでの現地調査を行ったりする中で、パンフレットやポスターの作成をするのがよいと考えた。今回の総合的な探究の時間を通して、橋本市の自営業者数は和歌山県内では2番目に多く一見発展しているようにも見えるが、近年は年々減少傾向にあり、より活性化をすべきだと感じた。また、このような計画を進めるためには市や公共団体との提携が不可欠であり、自分達から積極的に協力をもち掛けることが大事だと感じた。</p>	
1A6	給食の残飯について
<p>中学校の時に給食が多く残されていたことが非常にショックだったため、今回は「給食の残飯について」というテーマとした。まず、全国でどれくらいの量の給食が残されているかを調べ、実際に校内でもアンケートを取ってみた。次に、給食の残飯を減らすことに焦点を置くのではなく、再利用することに焦点を置いた。最後に、再利用はどのようにしたらうまくいくのかなどをインターネットなどで調べた。この活動を通じて、残飯が自然に与えている悪影響を知った。さらに私たち一人ひとりの意識を変えることにより、大量の家庭ごみや給食の残飯を減らすことができ、環境問題にもつながっていくと分かった。</p>	
1A7	活気のある橋本市にするためには
<p>私たちは、少子高齢化が進む橋本市から、活気のある橋本市にするために、まず、橋本市の人口を増加させようと考えました。子どもを増やすためには、若い夫婦を橋本市に移住させなければいけません。そのために、橋本市の子育て支援がどのくらい充実しているかを調べました。私たちが調べたものなかでは、知らない支援制度が数多く見受けられました。そのため、橋本高校の1年生の保護者の方々を対象にアンケートを実施しました。すると、知られていない支援制度が多くあることがわかりました。そこで、知られていない子育て支援制度の知名度を上げるために、私たちには何ができるのかを考えていきました。</p>	

1A8	環境防災
<p>環境防災ということで雨による災害について調べました。実際に橋本市で起きた災害をみて、橋本市がどのような対策をしているのか調べることにしました。橋本市役所の方が来てくださったときに私たちから質問をし、私たちが調べた以外にどんな対策をしているのか、私たちには何ができるのかなど聞かせていただきました。さらに、それらのことに関して気になったことを、実際に市役所まで聞きに行きました。そこでは、私たちが出したアイデアを伝え、改善すべきところなどをアドバイスしてもらいました。この活動を通して分かったことは、まず避難することが大切だということです。そのうえで、災害時に備えて事前に避難ルート確認や水、食べ物などの防災グッズを用意しておく事が大切であると分かりました。</p>	
1B1	橋本市をよりきれいにするために
<p>私たちは橋本市で生活している中で、日ごろ道端に落ちているゴミに着目し、橋本市をきれいにするためにはどうしたらよいかというテーマで活動しました。まず現状を調べるために、紀の川のゴミの量を調べに、実際に足を運びました。そのうえで、橋本市で行われている清掃ボランティアに着目しました。そこで、ボランティアに参加している年代に偏りがあると知り、スーパーセンターオークワにアンケートボードを設置することで、たくさんの地域の方から意見を頂けました。その結果、ボランティアの認知度が少ないため参加率が悪いと知りました。そのため、ボランティアが行われていることを広めることが大切だとわかり、ポスターを掲示することを提案しました。</p>	
1B2	橋本市のSNSを多くの人に知ってもらおう
<p>はじめは、「橋本市に人を呼ぶ」ということをテーマに探究を進めた。しかし、目標が大きすぎたため、最終的には「橋本市のSNSを知ってもらおう」というテーマに変えた。橋本市のSNSの認知度を知るためにクラスでアンケートを取ったり、市のSNSをどのように告知しているのかを知るためにイベントに足を運んだりした。橋本市には予算があまり無いため、費用がかからない案のほうが、より具体的に探究ができるとわかった。一方で私達は、費用がかかってしまう案を多く挙げていたため、実現を目指すことは困難であった。また、反省として、市の現状を変えるための「自分達の案」をもっと考え、アピールすればよいことがわかった。</p>	
1B3	橋本市の農産物を広めよう
<p>僕たちの班では農業班として「橋本市の農産物を広めよう」をテーマにして橋本市の柿やみかんなどの有名なものだけでなく、はたごぼなどのようにまだあまり知られていないものについても調べました。そして自分たちの調べたものを紹介して終わりではなく、テーマにもあるようにさらに広めるためにはどのようにしたらいいのかを考え、橋本市にイベントに来る人にキッチンカーを使って農産物を広めようということが最終の提案となりました。そのようなことを考えるを通して、橋本市にはキッチンカーは0台ということや、橋本市のイベントなど自分たち様々なことを知ることができました。</p>	
1B4	橋本市の農耕地と私たち
<p>橋本市には余っている農耕地が多い事に着目した。農家の減少は若い世代の意識の低さが関連しているのではと思い「余っている土地の活用の提案」「農業を身近に感じてもらう取り組み」をテーマにした。まず、夏休みにやっちゃん広場に訪れ橋本市には柿だけではなく様々な農作物が作られていることを知った。そして、農業について関心を持ってもらうために、若い世代が農業に対して何ができるのかを知ってもらうことが大事なのではないかと気づいた。そこで市で栽培されている意外な農作物を余っている土地を再利用して栽培するという提案と、ポスターを作成し関心を持ってもらう事を試みた。結果、農業は自分達と案外近い存在だと気付く事ができた。</p>	
1B5	橋本市一日ツアー
<p>観光客や移住者の人達に橋本市の魅力を知ってもらいたいと思い、橋本市一日ツアーを作成しました。その際、特に「ターン者」に焦点をおき、まだ知らない橋本市の名所を中心に紹介し、さらにその場所への行き方や営業時間などを示すことで観光客の人達が行きやすいようにしました。作る際に目的をハッキリとさせていなかったため、進行に支障が生じたと感じています。他にも調べた場所に実際に訪れなかったため内容が、ただネットで調べた情報だけになってしまいました。初めは調べる場所を一か所に絞っていましたが途中で限界を感じ、複数の場所を調べることにしました。</p>	
1B6	橋本市の商工業の発展
<p>僕たちは、橋本市の商工業を発展させるために遊ぶ場所などの娯楽施設が足りないと思ったので、橋本市の自然を生かした巨大アスレチックパークを作ることをテーマにしました。そして、これを実現させるために、まず、丸山公園とサカイキャニングスポーツセンターの公園を見に行きました。そこでは、小さい子供向けの遊具ばかりで中学・高校生や、大人が遊ぶことができる物はひとつもありませんでした。このことから、巨大アスレチックパークを作ることを提案しましたが、これを実現させることは金銭面でも、労働力や環境的にも厳しいことに気が付きました。もう少し、きちんと調べて計画し、現実的なことを計画、考案すればよかったと感じました。</p>	

1B7	高齢者が住みやすい街
<p>私たち高校生が橋本市での暮らしで交通の便など不便だと感じる人が多い中、高齢化も進んでいて、高齢者の方が今の暮らしに満足しているのかや橋本市が住みやすい街に変化していったのかに気がなったため、高齢者が住みやすい街にテーマを設定した。最初に高齢者が住みやすい街にするにはどうしたらよいかを考え、コミュニティバスを増やすという案が出た。しかし、それは実現不可能と考え、高齢者の方々にインタビューをした。そこで高齢者の方からいただいた意見を参考に自分たちなりにできることとできないことを考え出した。できないことが多い中、私たちができることはすれ違う時に挨拶をしたり困っていたら助けたりするなど気づいた。これまでの総合探究の時間を通して、ボランティア活動などが公式に発表されていない場面でも私たち個人で何か手伝いを見つけて行動していくことが大切だと思った。</p>	
1B8	地震について
<p>私たちの班では「地震」をテーマにして探究を行った。初めは、「災害」という広いところから始まった。橋本市は、南海トラフと密接な関係にあり、それが近頃起きると噂されているということで、「地震」というテーマに決めた。初めはなかなかテーマが決まらず悩んでいたが、何度も話し合い、テーマが決まった。テーマが決まると、アンケートを取ったり、非常食を食べたり、先生や市役所の方に話を聞いたりした。「何を考えたか」「何を伝えたいか」が上手くできなかった。スライドも文字ばかりで見ている人を楽しませることができなかったと思った。アニメーションをつけるなど工夫をすればよかったと班で反省があったが、それと同時に話し合いをする大切さにも気が付いた。</p>	
1C1	くらし、子育て
<p>私たちは、「子育てしやすい環境作り」をテーマに今まで活動してきました。私たちは、まず自分たちをここまで育ててくれた親に子育てをしてきて具体的に何が厳しかったかを聞いたり、市役所の方々にご意見をもらったりしました。その意見をもとにインターネットなどを使い、子育てする親たちが特に金銭面で悩んでいることを知りました。そして、この気づきをもとにどのようにすれば子育てする親たちの負担を減らせるかを考え、話し合いでアイデアを出し合い、解決策をたくさん考えることができました。</p>	
1C2	人口を増やすための町づくり
<p>くらしをテーマに橋本市の人口を増やすためにどのようなことをすればよいかということを考えました。そこで、私たちは高校生を対象に休日に利用する娯楽施設をアンケートで調査して、最も多かったものを橋本市で設置することができないのかということ橋本市役所の人に相談しました。その結果、橋本市だけではなく、企業の人たちの力も必要なことがわかりました。そして、橋本市以外の市町村で実際に行われている取り組みを調べ、それを参考に橋本市で行えるものはないか、グループで話し合いました。話し合いの中で、何かを作り出すことは大変だと感じ、協力の大切さに気が付きました。</p>	
1C3	農業について
<p>私たちの班は「農業について」をテーマにし、橋本市の特産物を調べました。橋本市は柿や梅が有名で、意外にも卵やぶどうも特産品とされていました。そこで、私たちは実際に橋本オムレツで有名な店にインタビューをしに行きました。卵はもちろん、マッシュルームなど地元の特産品を最大限に生かされるよう工夫されていました。他にも日本の農業にはたくさん課題があり、農業の高齢化などによる、若者の人手不足が深刻だと気づきました。そこで私たちはその課題を少しでも解決できるように外国人向けの農業体験をするなどの対策を考えました。</p>	
1C4	柿の美味しさを広めよう
<p>柿の美味しさをみんなに知ってほしいということを取り組みました。橋本市の今まで知らなかった魅力について知るために、実際に柿のおいしい加工食品の作り方を公表している市の案を参考にしたり、やっちゃん広場などの産地直売所に売っている加工商品はどんなものがあるのか調べに行ったりしました。また、農家さんにインタビューもしました。実際に柿の農家さんのところに行った時は、マニュアル化されつつある栽培などにも工夫が凝らされていたり、廃棄されてしまうような果物でも廃棄せずにいろいろな人に食べてもらえるように加工食品などにしたりしているということを知り、農家さんの日々の努力を知ることができました。</p>	
1C5	橋本市の魅力UPポスター
<p>「橋本市の魅力UPポスター」という題で広報に注目し、商工業についてをテーマにした。5人でアイデアを出し合い、橋本市の特産品を取り上げ、日本人だけでなく、外国人にも知ってもらおうと考えた。自分たちができる範囲で広報ができる場所を探したところ、橋本市の地元の特産品を売っているやっちゃん広場さんが快く広告のポスター作製に協力してくださったため、やっちゃん広場さんについての広告を英語で作らせていただいた。協力して下さる企業さんとのスケジュール調整が難しかったことと、集めた情報や調べたことについてわかりやすくまとめ、それを見やすくパワーポイントを作ることを大変さに気づいた。</p>	

1C6	子供たちと触れ合えるイベントを開催するには
<p>教育と福祉のテーマをもとに私たちに何ができるかを考え、まずは「JRの電車の本数を増やしてJRを利用する生徒の負担を減らす」「子供たちに活発になってもらうために公園で遊びながら地域に貢献する」ことを目標に活動を進めていった。それに伴い、「橋本市の幼稚園の数と配置」を調べた。その後、JRの電車の本数を増やすことは不可能だと知り、子供たちとイベントを開催することに絞り、イベントを開催するにはゲーム性を持たせることや、危険性への配慮が必要だと知った。総探の授業に限らず、行動を起こしてみる事が大切だと知った。</p>	
1C7	教育・福祉
<p>教員採用試験の受験者の減少を知り、教員の仕事や生きがいを伝え教員に少しでも興味をもってもらおうをテーマにやってきました。そのために、まず私たちは現場を知る必要があると思いました。そこで私たちは橋本中央中学校さんに訪問し、情報収集させていただきました。そこで私たちは大切なことに気づかされました。教師という職業は世間が思っているよりもしんどそうじゃなかったし、むしろ楽しんでいるように感じました。インタビューさせてもらっている中で生徒に日々愛情をもって接しているなどとても強く感じました。世間の偏見だけでは計り知れないほどの教師という職業のやりがいを教えていただきました。</p>	
1C8	橋高生がより安全に避難するために
<p>災害発生時に橋高生が早く安全に避難するために、私たちにできることを考えて活動してきました。具体的には、橋本市のハザードマップについて調査し、ハザードマップの利点と欠点から新しく地図を作成しました。その地図は、QRコードを利用して作成し、橋高付近の駅から最も近い避難所の情報を載せました。橋高生がいつ被災してもすぐに避難できるように、小さな紙に印刷し、配布しました。その地図は普段学校に持ってきているかばんに入れてもらいました。能登半島地震のように突然被災した時に、QRコードの地図を利用して早く安全に避難してもらいたいと思っています。</p>	
1D1	アダルトパーク
<p>橋本市において課題となっている少子高齢化を解決するためには、子育て世代を呼び込むための施設が必要という考えのもと、大人も楽しむことができる公園を作るというテーマを設定し、活動を行った。最初に現在橋本市にある公園における人の多さ・遊具の種類を調べ、それをもとに必要なと思う施設を話し合った。また県外や外国にある公園・アスレチック施設などについても調査し、幅広い世代が遊べる公園づくりの参考とした。相手のひきつけ方や、どのようにすれば楽しんで聞いてもらえるのかなどを、知るきっかけとなった。実際楽しんで聞いてもらえたことで確信した。人を惹きつけることは確実にできる。これからの発表も楽しみにしてもらいたい。</p>	
1D2	廃校の活用
<p>私たちは、地域の娯楽施設を増やすという目標を達成するため、『廃校の活用』というテーマで活動を続けてきました。私たちの班はアザレアで発表する班でした。そのために、実際に廃校を活用した施設へ行き、そこで働いている人の声を聴き、情報の信頼性を高めていきました。発表のために動こうとした矢先、病気で1人ダウンし、残された3人で発表することとなってしまいましたが、抜けた穴をカバーして発表を成功させることができました。最終的に私たちは今後廃校や公共施設の活用を促進して行く上で、ふるさと納税を通して集めたお金を補助金として使うことで再利用がしやすくなると思いました。</p>	
1D3	橋本の柿を全国に！
<p>柿をテーマにして探究の活動を進めていき、橋本の柿を和歌山以外の県や府にも広げたいと思い、その方法を考えていきました。気づいたことは、現状の認知度を得るのにもすごい努力があって、新しいことにも挑戦していているんだなということを知ることができました。どのように取り組んだかは、あまり課外活動とかはしていませんが、なるべく調べ、それでもわからないことは、役場の人に聞いて情報を得て、できるだけ多くのことを知ったうえで発表まで活動しました。</p>	
1D4	橋本市を花やかにしよう
<p>テーマである橋本市の魅力を発見し豊かにするについて、初めに橋本市の魅力とは何かを考え、橋本市の魅力は自然が豊かなことだと考えた。そこで花について注目をした。花について種類や特徴などを調べ、花を植える場所を訪れた。他県や他の市が行っている同じような活動を参考にするためにそこに訪れたりもした。この活動を通して、想像以上の花の種類がある事が分かったので花について理解を深めることができた。さらに、どのようにしたら橋本市に人が集まるか、橋本市を活気のある街にできるかなど橋本市の魅力を発信するためには何をすべきかについて考えることができた。</p>	



1D5	橋本キッチンカー
<p>橋本駅でキッチンカーを呼ぶことを企画し、柿を使って独自の料理を作ったり、難波駅周辺の探索、直接キッチンカーを見に行ったりした。活動を通して、橋本駅周辺に店を作ることは難しいことや、柿を使った料理を作ることは難しいこと、キッチンカーを使ったイベントは盛り上がるのがわかった。パワーポイントのアニメーションの使い方やスライド、原稿の作り方を学んだ。また、他の班の発表からアニメーションのすごさやギャグセンスも学んだ。地域の課題に班で一丸となって取り組むことは、楽しかった。先生のアドバイスを取り入れたり、市役所の人から指摘してもらったり、色々と案を練りこむことは中々苦戦したが、最終的に案をまとめることが出来たのでよかった。</p>	
1D6	橋本市の特産品を広める
<p>橋本市の特産品を広めるをテーマとして、駅や人に見てもらえるような場所に、自分たちのオリジナルポスターを作成し駅に貼るという広め方をしました。橋本市が広めたい特産品を聞き、ポスターに掲載することを決めました。対象を外国人にして、自慢できる様な特産品を紹介しました。私達は取り組む過程で、市役所を訪れる機会があり、その際に組織がどのようにできているか、画像等の使用許可を頂く事の難しさについて学びました。そして、発表を準備するときには放課後も使ってみるまで協力することの大切さも学ぶことができました。この体験のおかげで自分たちも橋本市の見方が良くなりました。これらの市役所への質問や発表などの活動を通しての経験は次回の機会に生かせるようにしたいと思っています。</p>	
1D7	小学生の安全意識を高めよう
<p>学校の登校時や学校生活の中での危険な場所を再確認し、小学生に安全意識を高めてもらうことをテーマに取り組んだ。まずは班のメンバーの地域周辺の危険な場所を調べた。その後、今回は橋本小学校の方々に協力をお願いし、通学路についてのアンケートや地図の製作に協力していただいた。これらのことを踏まえ、橋本小学校周辺の危険な場所マップを作った。それをお礼状と共に橋本小学校に送り、校内に掲示させてもらう予定。この活動を通して小学生の通学路でどこがどう危険なのかということに気づいた。また、小学生の安全意識が高まっただけでなく自分たち自身の安全を意識することができた。</p>	
1D8	自分達でゴミを分別し減少させよう！
<p>私たちの班はゴミを減らすことをテーマに、どのようなゴミが多いのか、そのゴミは少しでも減らすことはできないのだろうかなどを調べました。自分たちだけでできる最大限の工夫を考え「どうしたら聞き手の方に自分たちの発表に興味を持ってもらうことができるのだろうか？」ということを一歩に話し合いPowerpointの作成、原稿の作成などメンバーの当番を決めてみんなで協力して聞き手の方に少しでもゴミを減らしたいと思っていただくために取り組んできました。この活動から私たちは協力し合う大切さ、メンバー全員が話し合っって意見を一つにまとめていく大切さに気付きました。またメンバー全員がこのような活動が初めてだったので、次に何をしたら上手いのか少しは掴んでいると思います。</p>	
1E1	暮らし社会
<p>橋本市の魅力伝えることをテーマに、YouTubeショートを通して橋本市の良いところを動画にしてパワーポイントを作成した。橋本市の良いところや、YouTubeショートの作り方について聞くために市役所の人に電話をして、インタビューした。動画を作るときに工夫することや、気を付けることを教えてもらった。そして、みんなで橋本市の良いところを調べたりした。それから、もらったアドバイスを参考にして、自分たちで動画を作ることで、橋本市には、きれいな自然がたくさんあることや橋本市のよいところについて気づけた。</p>	
1E2	地域通貨
<p>地域の活性化を図ることを目標に、橋本市で使われている地域通貨をより多くの人に使ってもらえるためのシステムを考えることをテーマにしました。現在、橋本市で施行されている地域通貨の利用方法を調べ、より良く出来る点を考えたり、他の地域で行っているシステムなどから取り入れることがないかを考えたり、班員で意見を出し合いました。この活動を通して、取り組み始めた当初はどのようにしたら多くの人に地域通貨を使ってもらえるようになるのか、どのようにまとめたら地域通貨に興味を持ってもらえるのかと苦戦しましたが、地域通貨に対する認識の現状、地域通貨で市の活性化に成功した取り組みを知ることによって、私たち高校生の視点ならではの提案ができることに気づくことが出来ました。</p>	
1E3	橋本市は柿だけじゃない！
<p>私たちは橋本市の農業について調べたところ、果樹が生産の多くを占めていることが分かりました。そこで柿以外の他の農産物も活性化させることが必要だと感じました。そこで、私たちは高野山麓精進野菜を有名にする取り組みを考えました。農家さんや市民、売る人買う人など様々な立場から考えることを大切にしました。その結果様々な提案を考えることができました。また、パワーポイントを作成するには資料を沢山集め、その中から伝わりやすい資料の選定を行ないました。アンケート結果も円グラフに起こしてより、説得力のあるパワーポイントを作成することを心掛けました。発表を通して、「橋本市は柿だけじゃない！」と気付くことができました。</p>	

1E4	小学生を通して、より多くの人に橋本市の農業について知ってもらおう。
<p>橋本市の農作物を広めることをテーマに活動した。紀見小学校の生徒さんと保護者様にご協力いただき、アンケートと調理実習を行うことを計画したが、調理実習は小学校と都合がつかず実施できなかったため、アンケートのみ実施し、結果をまとめた。この活動の中で、早い段階から計画的に活動を進めていくことが大切だと分かった。また、提案したことがうまくいかなかったときのために、代替案をいくつか考えておくべきだった。発表に関しては、段階を踏んだ構成を意識し、スライドは簡潔にまとめることで聞き手に伝わりやすくなったと感じた。</p>	
1E5	特産品の売り出し方
<p>私たちは橋本市の特産品について調べました。橋本市の特産品があまり若い年代の人たちに知られていないことに注目しました。若者にあまり知られていないことによって、特産品が広まりにくくなっていると考えました。そこで、特産品を広めるための手段を考えました。SNSやイベントを通じてより多くの若者に知ってもらい、橋本市の活性化につなげることができると考えました。また、校内アンケートを実施し、実際に若者たちがよく使うSNSや、橋本市の特産品の入手方法などを聞きました。そして、成功例や具体例を提示することで自分たちの提案に説得力を持たせました。</p>	
1E6	保育従事者の負担を減らす
<p>私たちは「保育従事者の負担を減らす」ことをテーマとした。理由は、保育士の減少や待機児童に関するニュースを目にし、現代社会においての課題だと考えたからだ。まず現状を把握するため、インターネットで調べ、すみだこども園さんを訪問しインタビューを行った。そこで分かった現状をもとに解決策を考えました。発表を通じて普段であれば高校生という立場では気づけない保育現場の課題、現状を知り、世の中には我々が知らない課題が多数存在することが分かった。また、当事者でなくても課題へのアプローチの仕方がたくさんあることが分かった。</p>	
1E7	高齢者向けサービスの知名度向上
<p>私たちは橋本市が現在行っている高齢者を対象としたサービスの知名度の向上をテーマにした。主に橋本市役所のホームページを用いて取り組んだ。市役所の方に来ていただいた際には、市役所側がどのようなものを必要視・重要視しているのかを教えていただき自分たちの活動方針の参考にした。各々が各々の得意なことを活かした仕事を請け負い、効率的に活動を進めた。始めは市が何を行っているのかをほとんど知らなかったため、調べるのは簡単だろうと思っていた。しかし実際は様々なサービスを行っており、情報の多さに驚かされた。知名度を向上させるための活動は、想像以上に難易度が高かった。</p>	
1E8	橋本市の川の環境
<p>私たちの班は、「橋本市の川の環境」というテーマで1年間活動した。実際に橋本市の川の環境を調べ、子供たちの遊び場となれるような川にすることを最終目標に探究した。夏休みと放課後の2回、橋本川と紀ノ川へ行き、どのような生物がいるのかや、どのようなごみが落ちているのかを調査した。校内の先生方にご協力いただき、橋本市の川の印象に関するアンケートを行った。そして、インターネットで他県で行われている川を生かした取り組みを調べ、調査と関連づけて橋本市の川の利点と欠点をふまえた上で橋本市の川でもできるイベントを提案した。</p>	

## 8. 2学年探究内容

### 【活動計画】

月	日	曜日	2年
4	14	金	①2年生の学習内容の説明（学年集会で：4月12日）
	20	木	②べたっとSDGs（5・6限 体育館）
	28	金	③SDGsを理解する（春課題を題材）
5	12	金	④課題設定に向けて1（BS/KJ法、班分けアンケート）
	26	金	⑤課題設定に向けて2（テーマ設定：BS/KJ法）
6	2	金	⑥課題設定に向けて3（テーマ設定）
	23	金	⑦講演（プレゼンテーション講座）5・6限体育館
7	7	金	⑧課題設定1（As-Is/To-Be）
	14	金	⑨課題設定2（As-Is/To-Be）
	18	火	⑩課題設定3（As-Is/To-Be）
			夏課題（企業訪問事前学習、SDGs 大学研修事前学習） 橋本小学校企画交流（希望者）
8	25	金	⑪中間発表準備1（活動届説明）
	28	月	⑫SDGs 大学研修（関西大学・大阪教育大学・大阪公立大学）
9	1	金	⑬中間発表準備2
	7～9		⑭SDGs 企業研修（スマイリーアース）
	8	金	⑮中間発表準備3 →中間発表シート提出
	15	金	⑯中間発表：6・7限
	22	金	⑰中間発表振り返り
10	5	木	⑱課題設定の再確認（2時間）
	13	金	⑲発表準備1
	20	金	⑳発表準備2
	27	金	㉑発表準備3
11	10	金	㉒発表準備4（PP作成）
	17	金	㉓発表準備5（城山台小学校交流来校：5限）
12	1	金	㉔発表準備7（読み原稿作り・発表担当順決め）
	11	月	12/11（月）城山台小学校授業訪問：希望者 橋本小学校授業（12/18 12/19 12/21）
	21	木	㉕発表準備8（審査基準の確認、発表順）
			冬休み宿題：プレゼンテーションの練習をしてくる
1	12	金	㉖クラス内発表会（6・7限 各HR教室）
	26	金	フィンランドとの交流（2D） SDGs探究AWARDS 〆切
2	1	木	マレーシアとの交流（2B）
	2	金	㉗釧路湖陵高校とのオンライン交流（5限）
	8	木	㉘校内発表
	16	金	㉙振り返り（まとめ、お礼文作成）
	15・19		㉚振り返り（まとめ、評価）
3	18	月	台湾との交流（2E）
			オーストラリアとの交流（2A.2C）

## 【主な活動内容】

2学年の総合的な探究の時間では、SDG s 達成に向けて自分たちにできる取り組みを提言するという課題学習に取り組んだ。講演や実地研修では、探究活動についてのスキルを学び、様々な交流を通して広い価値観に触れた。中間発表では有識者へのプレゼンテーションを通して課題に対する理解を深化させる機会となった。小学校での授業実施や地元企業での企画実施など、自分たちの提言を実行に移し、考察を深める班もみられた。

### ①ペタッとSDG s

日時：4月20日（木）5・6限

場所：本校（体育館）

目的：新聞と「ペタッとSDG s新聞学習ふせん」を使用して思考を見える化し、新たな気づきや学びを共有して、総合的な探究の時間の学習活動に繋げる。

内容：新聞とSDG s付箋を使ったワークショップ  
講演 朝日新聞社 CSR 推進部 NIE 事務局長  
白銀泰氏



### ②プレゼンテーション講演会

日時：6月23日（金）6～7限

場所：本校（体育館）

目的：プレゼンテーションの基本を体系的に学び、聴き手の共感を得る方法を理解することで、探究活動に役立てる。

内容：講演「探究が変わるプレゼンテーション」  
京都芸術大学 吉田大作氏



### ③夏休み課題

目的：SDG s 大学研修事前学習、企業訪問事前学習

内容：SDG s 大学研修：冊子を使って大学内容について調べてくる。

企業訪問：訪問企業（スマイリーアース）のHPを見る。

総合的な探究の時間 As-Is/To-Be シート（課題の把握と設定、解決策）を各自で仕上げる。

### ④中間発表

日時：9月15日（金）6～7限

場所：本校（各HR教室）

目的：総合的な探究の時間で取り組んでいる課題研究について、班別プレゼンテーションを行い、有識者からの講評・質疑応答を通じて、新たな視点・観点を生徒間で共有することにより、自らの考えや共通理解を深め今後の探究活動に繋げる。

内容：「SDG s 達成のために自分たちができること」発表2分+講評・質疑応答

講評：木村憲喜（和歌山大学教授） 石原伸一（和歌山大学国際アジアティブ基幹）  
 岸田正幸（和歌山信愛大学教授） 小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）  
 鈴木晴久（高野山大学教授） 細田能成（和歌山信愛中・高等学校顧問）  
 井筒正文（橋本高等学校前校長）  
 塩見善則・中嶋悦子・竹中みちこ（JICA 国際協力推進員）



### ⑤クラス内発表

日時：1月12日（金）6～7限

場所：本校（各HR教室）

目的：総合的な探究の時間で取り組んできた課題研究について、クラス内でプレゼンテーションを行い、講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。

内容：「SDGs達成のために自分たちができること」発表6～8分。クラス代表1班を決定する。  
 評価者は、外部評価者、各クラス担任、学年主任担任、生徒



外部評価者：木村憲喜（和歌山大学教授）  
 岸田正幸（和歌山信愛大学教授）  
 小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）  
 鈴木晴久（高野山大学教授）  
 細田能成（和歌山信愛中・高等学校顧問）  
 井筒正文（橋本高等学校前校）  
 塩見善則（JICA 国際協力推進員）  
 井原敦（JICA 国際協力推進員）  
 談儀善弘（和歌山県青年海外協力協会会長）



### ⑥SDGs 探究AWARDS 応募

日時：2月1日（木）

目的：持続可能な社会に向けて自分たちができるアクションを考え表現できる場を目的としたコンテストに応募し、活動成果を発表する。

内容：クラス代表班がプレゼンテーション動画を作製し応募する。

## ⑦校内全体発表

日時：2月8日（木）

場所：橋本市サカイキャニング産業文化会館「アザレア」

目的：総合的な探究の時間で取り組んできた課題研究について、代表班のプレゼンテーションを行い、有識者からの講評を通じて、新たな視点を生徒間で共有し、探究学習を深化させる。

内容：「SDGs達成のために自分たちができること」発表10分＋講評・質疑応答

講評：木村憲喜（和歌山大学教授）

岸田正幸（和歌山信愛大学教授）

小滝正孝（和歌山信愛女子短期大学教授）

鈴木晴久（高野山大学教授）

細田能成（和歌山信愛中・高等学校顧問）

井筒正文（橋本高等学校前校長）

談儀善弘（和歌山県青年海外協力協会会長）

井原敦（JICA 国際協力推進員）

### 【校外での活動の様子】





提出日：総合的な探究の時間の最初の授業 2年( )組( )番( )

皆さんは、1年で地域の課題について取り組んできました。2年ではもう少し視野を広げて、「持続可能な開発目標」SDGsの達成に向け、自分たちができることは何かを考える探究活動を行います。現在、多くの方が持続可能な社会の実現のために活動しています。朝日新聞では「2030 SDGsで変える」というサイトでSDGsに関するニュース記事をまとめています。春休み中にそのサイトにある記事をたくさん読み、SDGsに関する知識をつけ、視野を広げておきましょう。  
自分が何に関心があるのか、大切にしていることは何かを知り、そのことと社会がどう関わっているかを知る機会にしましょう。

課題の手順

- ① 「2030 SDGsで変える」で検索。
- ② 記事を1つ選んで読んでみる。  
新着記事、記事ランキング、キーワード、目録別どこから選んでも良い。どれを読むかであまり悩まず、タイトルを見てぱっと目をひくものを読むことがポイント。
- ③ とにかくたくさんさんの記事を読んでみる。  
いろんなジャンルで少しでも興味をもった記事をどんどん読んで、知識をつけ、視野を広げましょう。
- ④ たくさんさんの記事を読んだ中で、特に「おもしろい」「他の人に伝えたい」と思った3つの記事についてワークシートの(1)～(3)にまとめる。
- ⑤ これからのSDGs探究活動で取り組みたい課題を考える。

2年の総探で、この課題の内容についてグループ内で共有します。しっかり課題に取り組みましょう。



(1) 記事のタイトル

どんなSDGsに関する課題があるのか。

その課題に対して、どう取り組んでいるか、または、どう取り組もうとしているか。  
(取り組みについて書かれていなければ、自分で考えてみよう。)

なぜこの記事を「おもしろい」「他の人に伝えたい」と思ったか。



設定したSDGs 17の目標： \_\_\_\_\_ 取り組むタイトル： \_\_\_\_\_

\*取り組みたいテーマを掘り下げるために、身の回りの生活や地域、社会に目を向けて、気になっていることや問題だと感じていること、不便だと感じていることを考える。

②As-Is：現在の状況（現実はどうか）

①⑤To-Be：理想的な状況（着目した事柄についてのあるべき姿）



③課題（理想と現在の状況を比較し、どのようなギャップがあるか）

課題(どこの、誰の、どんな課題) 目標達成に近づけやすいものから優先順位をつける

その課題について調べるべきこと（どのような情報を収集すべきか、調査項目）

④解決策（課題解決のためにどんなことをしなければならないか）

課題を解消するためにすべきこと

自分たちの具体的な行動（誰に、どうすることで、どのような状況にさせたいのか）

【課題研究内容一覧】

2A1	11	防災意識を高めよう
<p>私たちの班は「住み続けられるまちづくり」をテーマにして活動しました。石川県の能登半島地震では、津波や火災などで多くの人が亡くなりました。この出来事から、私たちは災害への備えが必要であることを再認識しました。特に南海トラフ地震に備えるために、防災リュックの準備、家具の固定、避難行動要支援者名簿への登録など、具体的な対策を考えました。普段から家族や仲間と避難計画を相談することが必要だと思いました。ここで私たちは大地震は身近なものであると改めて認識し、災害への備えがどれだけ大切か、この活動が誰かの助けになるのではないかとわかりました。</p>		
2A2	11	住み続けられる環境を作るために
<p>SDGsの11番目の「住み続けられるまちづくり」の中でも防災対策について考えました。高齢者、乳幼児は災害が起きて環境が変わってしまうと私たち以上にストレスを感じてしまいます。なので、避難所に逃げる選択肢以外に在宅避難という方法があることをまとめました。(海や川沿い、山の麓の人は勧めない)在宅避難は普段からの備えがないとできないことなので、日ごろの防災意識を高めるとともに自分の身は自分で守れるように、そして、若者は高齢者、乳幼児に気を配るように促しました。私たちはこの取り組みで意識を持つだけでなく、備えることが大切だと思いました。そして、年齢に合わせた避難の仕方や指示が必要だと感じました。</p>		
2A3	14	プラスチックごみの発生を減らすには
<p>海のごみの発生の原因やプラスチックごみの発生の抑制方法をテーマにしました。私たちはファストフード店などを例に海外と日本の対策を調べ比較しました。調べた結果日本と海外ではプラスチックごみへの対策の意識が違うことがわかりました。海外は繰り返し使える容器を使ったりなどの対策をしていて日本にもこの対策を取り入れるべきだと考えました。自分たちの班にはメンバーにオーストリアからの留学生がいたため、海外のごみの対策事情を聞き、発表に生かしました。また私たちはごみ対策のポスターを作り子供たちにも知ってもらおうと取り組みました。</p>		
2A4	5	Let's think about transgender
<p>私たちは橋本高校の制服をセーラー服・学ランからブレザーに変更することを提案しました。理由としては、最近導入されたスラックス使用について違和感や着づらいと感じる人が多かったり、様々な意見を聞いたことから、ジェンダーの人だけに限らず、皆が着やすくなるようにするためです。ブレザーは、上が男女同じなので違和感を軽減するのに適していると思いました。私たちの班は大きな視点で見るのではなく、身の回りの実現可能なことを探してみました。伝統も大切だけど、時代によせていくことも大切だと感じました。</p>		
2A5	5	誰もが幸せに暮らせる橋本市
<p>同性婚に着目して総合的な探究の活動に取り組みました。橋本市の現状やジェンダー関連の法律・制度の仕組みを学び、オランダなどのジェンダーギャップ指数の高い国の取り組みを参考に、私たちが大きな祭りを開催することで、より多くの人にジェンダーについて興味を持ってもらい、同性婚について正しい知識、理解を得ることができると考えました。私たちが大きな祭りを開催することがいかに難しいことであるかを実感しながらも、小さなことからコツコツと取り組んでいくことが祭りの開催を実現することへの第一歩であると感じました。</p>		
2A6	11	避難時のポスター制作
<p>私達はsdgsの11番の住み続けられる街作りをテーマに災害時、避難場所を分かりやすくするため、目につくような色を使ったポスターを作成し外国人の人達でも分かるように英語で表記し、災害の種類に応じたポスターを作りました。総合探求を通じて日本人だけではなく外国人の対応も必要になるとわかりました。海外では日本ほどの災害が発生しないため、どのように避難すればよいかわからない人が多いと知り、住み続けるためには、災害がともなってくるために私達日本人だけではなく、外国人も住み続けられるような取り組み方が必要だとわかりました。</p>		
2A7	12	食品ロスをなくすために
<p>食品ロスをテーマに自分たちができることを考え、オリジナルのレシピを作成しました。そして、自分たちで作ったものを親世代から小学生までの方々に食べてもらいました。また、そのレシピを提供できないかと考え、給食センターや市役所に問い合わせたり、クックパッドに掲載したり、実際に行動して取り組みました。この活動を通して、食品ロスについて改めて知ることができ、より普段から食品ロスを減らすためにできることを意識して生活していかなければならないと気がきました。自分たちが行動したことで、周りの人たちにも知ってもらうことができ、行動力の大切さを学びました。</p>		